研修医・指導医リレーエッセー⑭

臨床研修医の意見を拾い上げ成長する臨床研修体制

岡山済生会総合病院　卒後臨床研修プログラム責任者　那須淳一郎

岡山済生会総合病院の卒後臨床研修プログラム責任者の那須淳一郎です。平成５年卒ですのでもう研修医は子供より年下になってしまいました。私のころはストレート研修で、臨床研修制度と関わりが深くなったのは、11年前に当院に着任してからです。内視鏡センター長を拝命すると同時に見学の学生との交流が始まりました。「この病院の魅力はなんですか？」「どんな臨床経験ができますか？」。すぐに私は医学生の見学担当は病院の外の社会に開かれた窓であり、病院を代表する顔であると理解しました。まずは医学生や研修医と出来るだけ多くの時間を過ごすことを目標としました。そして月日が過ぎ、気がつくと私は卒後臨床研修プログラム責任者になっていました。

今年の４月に臨床研修を開始した医師は現在の臨床研修制度の第22期生にあたります。さて、岡山済生会総合病院の卒後臨床研修（初期研修）の特徴は、まず研修医からの指導医へのアプローチのしやすさ、診療科間の垣根の低さです。次にやる気があれば率先して手技をできること。それを補填する意味で手技のシミュレーションや実践的レクチャーを開催しています。さらに３つ目は主体である研修医の意見をより良い研修のために反映させることです。選択期間は２年目にしていましたが、研修医の意見を取り入れて、１年目後半選択コースと入職直後の超早期選択コースを作りました。ご興味のある方はホームページをご覧頂くと良いですが、将来マイナー科に進みたい研修医が選んでいて好評です。さらに過去には研修医の要望で、始業すぐに「当直お疲れさまミーティング」、通称：当直振り返りカンファレンス、を開催するようになりました。これからも元気な研修医の意見を取り入れてより満足度が高い卒後臨床研修を目指します。

臨床研修医にはさまざまな院内行事に力を貸してもらっています。業者主催のリクルート行事はもちろんのこと、病院説明会ではとくに同じ出身校の医師が居ると大変盛り上がります。病院行事として未成年向けの「こどもメディカルラリー」や地域住民向けの「済生会フェア」があるのですが、とくにこどもメディカルラリーでは将来医療従事者を目指す子供のよきロールモデルになってくれています。

研修医の意見を拾い上げ、研修医との接点を増やすために４年前からプログラム責任者以外の副責任者を増員し、現在さまざまな診療科の熱い指導医６名の体制にして毎週ミーティングをしています。折に触れて研修医を呼び止めて意見をきいています。一方で医療人ですから、医療の現場では成功だけでなく挫折も味わうかもしれません。私は喜びも悲しみも研修医に体験してもらいたいです。現在、当院の臨床研修医は１学年11人ですが、苦楽を共にするにはベストの人数と考えます。そして、研修医指導の醍醐味は２年間で見せてくれる成長です。今年も２年目の研修医がますます活躍しているので年度末の修了認定のための研修医発表会が大変楽しみです。